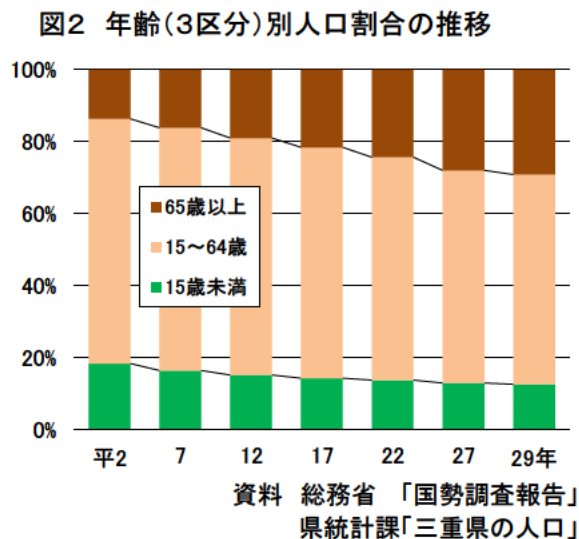
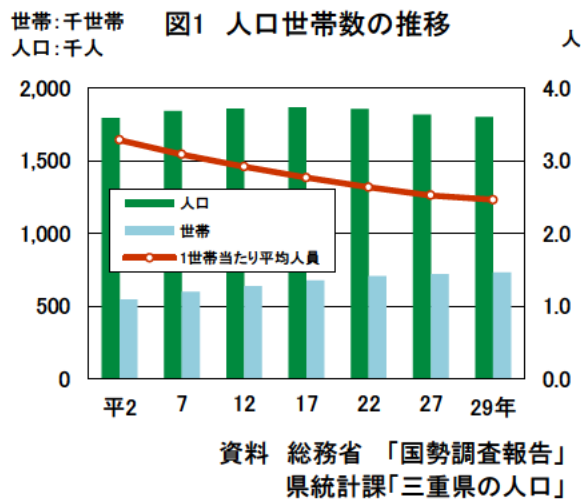


人口

平成29年推計人口

平成29年10月1日現在の総人口は179万8,886人(男87万6,318人 女92万2,568人)で、前年に比べ8,725人(0.5%)減少しました。

また、年齢3区分別にみると、年少人口(15歳未満)が総人口に占める割合は12.5%、生産年齢人口(15~64歳)割合は57.7%、老年人口(65歳以上)割合は28.7%となっています。平成27年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合が0.4ポイント、生産年齢人口割合が0.8ポイントそれぞれ下降しました。一方、老年人口割合は1.1ポイント上昇しました。



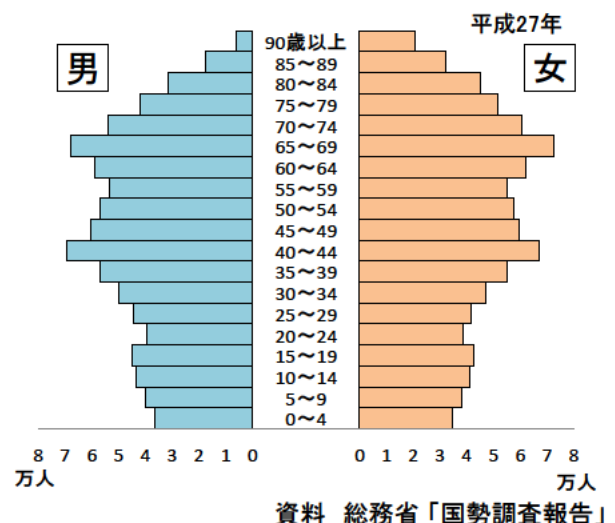
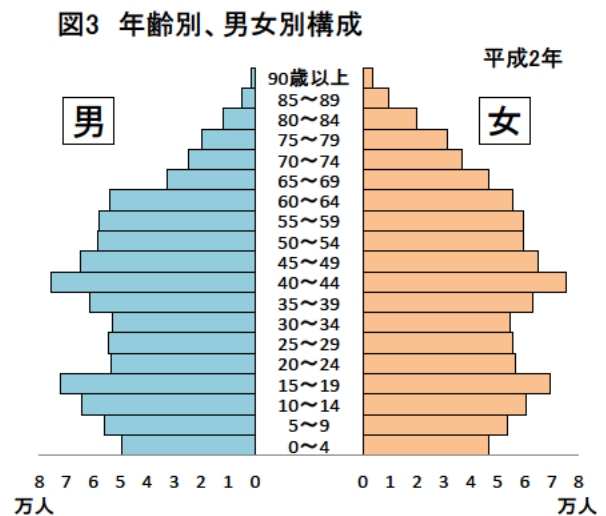
平成27年国勢調査結果

平成27年10月1日現在の総人口は181万5,865人(男88万3,516人、女93万2,349人)で前回調査の平成22年に比べ38,859人

(2.1%)減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和30年~35年にわずかに減少したのを除くと、大正9年以降増加を続けていましたが、平成22年調査から減少に転じました。

総世帯数は72万292世帯で、平成22年に比べ1万5,685世帯(2.2%)増加しましたが、1世帯当たり人員は2.52人で平成22年と比べると0.11人減少しました。

また、年齢別構成を平成2年と比べると、少子化、高齢化していることがわかります。



人 口

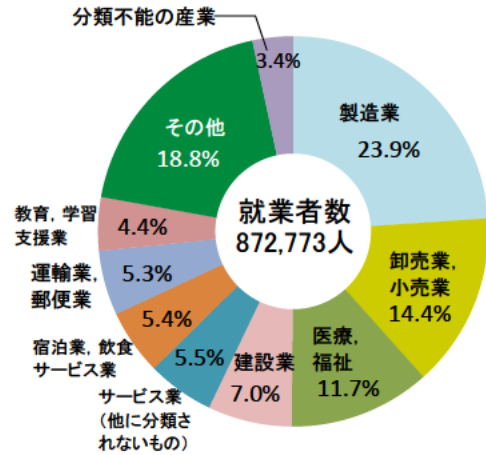
産業別就業者数

平成27年10月1日現在（国勢調査）の15歳以上の就業者は87万2,773人で、前回調査の平成22年に比べ2万2,324人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の20万9,004人（構成比23.9%）、次いで卸売業、小売業の12万6,075人（同14.4%）、医療、福祉の10万2,406人（同11.7%）と続いています。

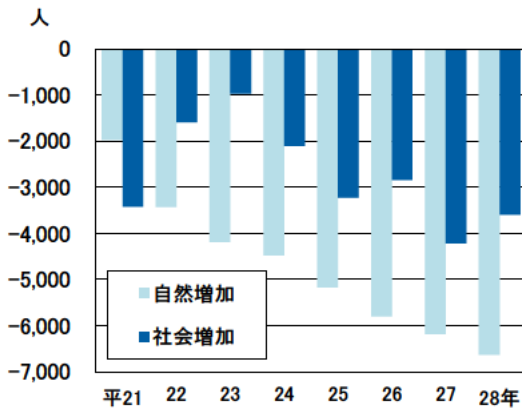
また、産業3部門別にみると、第1次産業が3万1,229人（構成比3.6%）、第2次産業が27万322人（同31.0%）、第3次産業が54万1,969人（同62.1%）となっています。

図4 産業別就業者数 平成27年10月1日現在



資料 総務省「国勢調査報告」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」
厚生労働省「人口動態統計」

人口動態

平成28年1年間の人口動態は、出生1万3,202人、死亡1万9,830人、他都道府県からの転入2万5,728人、他都道府県への転出2万9,325人となりました。

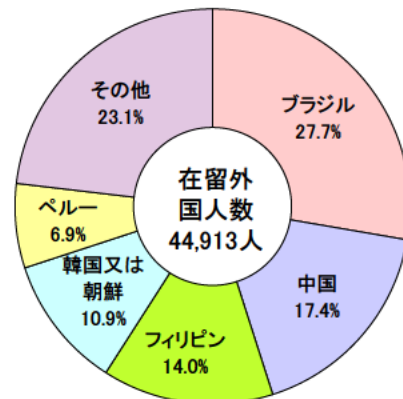
人口動態の推移を自然増加（出生－死亡）と社会増加（県外からの転入－県外への転出）でみると、自然増加数は年々、減少数が拡大する傾向にあり、平成28年には6,628人の減となりました。

また、社会増加数は平成20年から28年まで9年連続（平成28年3,597人）の転出超過となりました。

在留外国人数

平成28年12月31日現在の在留外国人数は、4万4,913人でした。国別の内訳をみると、ブラジルが1万2,445人（構成比27.7%）、中国が7,795人（同17.4%）、フィリピンが6,294人（同14.0%）、韓国又は朝鮮が4,888人（同10.9%）、ペルーが3,100人（同6.9%）などとなっています。

図6 在留外国人数 平成28年12月31日現在



資料 法務省「在留外国人統計」